

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1階)**

事業所番号	2772401895		
法人名	社会福祉法人まりも会		
事業所名	グループホーム樹の実		
所在地	大阪府枚方市春日北町4丁目1-20		
自己評価作成日	令和6年8月7日	評価結果市町村受理日	令和6年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://marimokai-osaka.or.jp/">https://marimokai-osaka.or.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和6年8月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム樹の実は法人の理念でもある、基本的人権の尊重をもとに「自分らしさを大切にいきがいのもてる暮らしをともに作りましょう」「地域の中で共に暮らし地域の皆さんと支えあいましょう」という理念を掲げ、地域とともに歩んでおります。地域の方々との協力や同法人の保育所並びに障害者施設の協力を得ながら、地域の中で安心して過ごしていただけるように努めています。コロナ禍を経て、少しずつ地域の夏祭りへの参加を再開しており、地域の方々との繋がりを取り戻しつつあります。また他の介護事業所とも助け合いを行える関係づくりに努めています。利用者の皆さんが安心して過ごせるよう、ご家族へ様子を丁寧に伝える事を大切にしており、看取り介護を含め、利用者や家族の皆さんが安心してできるように努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

枚方市を中心に障がい者施設、保育園、グループホームの3分野4施設を開設している社会福祉法人が、「平和でだれもが人としての人権・尊厳を大切にされる社会づくり」を目指して設立、運営している。当該事業所は法人傘下の保育園と併設して22年前に開設し、事業所から保育園児の元気な姿や声に触れることができる。職員は毎年理念と4項目のケアの実践(自主性の尊重、寄り添ってケア、いきがい作り、閉じ込めない)の研修の受講や、利用者個々の「日課計画書」を作成し日々のケアに繋げている。家族には開設当時から作成している「樹の実だより」の送付や、利用者の暮らしぶりを電話で詳細に報告しており、家族から安心と感謝の声が多く寄せられている。地域住民との交流も多く、職員間の連携も良好で「その人らしさを大切にした運営」を実践している事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	<b>【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】</b>			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げており、事業所内のわかりやすい場所に掲示している。また内部研修や日々のケアの中でスタッフと理念の共有認識に努めている。	理念は、「自分らしさを大切にしいきがいのもてる暮らしをともに作りましょう。地域の中で共に暮らし地域の皆さんと支えあいましょう。」としており、開設時の理念を現在まで継承している。玄関口とフロアへの掲示とパンフレットに掲載し、来訪者や多くの住民に周知している。職員は毎年開催する研修会で理念の理解を深め、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行し、動向や流行をみながらではあるが少しずつ地域の夏祭りや地域のサロン等に参加している。ボランティアの受け入れは検討中である。地域の理美容院の利用は続けている。	地域情報は、自治会長や民生委員から運営推進会議などで把握している。コロナ感染症分類の変更以降地域行事(夏まつり、ふれあい喫茶、七夕まつりなど)に積極的に参加しており、現在休止中のボランティア(アコーディオンやハーモニカ演奏など)の受け入れの再開を考えている。近隣の福祉施設からの相談を受けるなど地域交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム連絡協議会から認知症サポーター養成講座の依頼を受けて講師として参加したり、地域の方より相談を受けることがあり、気軽に相談をできる場所として取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催しており、ヒヤリハット・事故報告・苦情・虐待や身体拘束など、施設の様子を報告しながら意見交換している。また頂いた意見を職員へ伝えている。	会議は2か月毎に、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族代表2名、法人本部及び事業所職員が参加して開催している。会議では、入居状況、事故・ヒヤリハット報告、相談・要望内容、事業所や地域行事の予定を詳細に説明し、話し合っている。会議録は全家族に送付しており、「事業所の様子が良く解る」との声が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課へ不明点や相談などの連絡をとっている。地域包括支援センターにも同じく連携をとっており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	枚方市の福祉指導監査課や介護認定給付課及び生活支援課とは、関係書類の提出や申請はメールや郵送を活用しているが、2か月毎に開催されるグループホーム連絡会の時などに参加している。市職員とは事業所運営の課題の相談や意見交換をするほか、管理者は認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど市との協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主に内部研修を通じて身体拘束しないケアについて学びあっている。夜間以外の門扉施錠は行わず、研修の中で具体的な行為についての確認し、利用者の意思に寄り添ったケアを目指している。	身体拘束等適正化のための指針に基づき、身体拘束適正化委員会を2か月毎（運営推進会議終了後）に開催している。研修会は年2回開催しており、拘束をしないケアを目指して常に職員間で話し合っている。玄関やユニット出入口にドアベルが取り付けられているのみで利用者は自由に出入りが出来るが職員は常に利用者の行動に目を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主に内部研修にて学びあい、身体的・精神的虐待のないように日々のケアに努めている。会議でも不安含め、常に様々な視点から話し合っており、虐待や不適切ケアのないように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が数名おられ、相談時には積極的に協力も含めて対応している。身寄りのない方もおられ、研修により制度の中身や必要性や理解を深める機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に契約時や解約時には時間をかけて十分に説明を行なうとともに、いつでも質問ができるようにその都度確認しながら行なっている。いつでも不安や疑問点が聞けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から丁寧に様子を伝え、利用書や家族の要望や意見を伺うようにしている。普段の関わりや運営推進会議を通じて家族の意見や思いを伺う機会も設けており、速やかに職員にも伝達している。	利用者・家族の意見要望は、面会や架電のほか、入居時、介護計画更新時、運営推進会議などで把握している。家族から利用者のケア方法などの要望があった際は、意向に沿った対応に努めている。事業所開設時から発行している「樹の実だより」（利用者の暮らしぶりを写真に収めて毎月発行）は、家族から感謝の声が寄せられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時には職員の意見や提案を聞くように努めている。会議に参加できない人への意見も事前に聞く機会を設けている。また個別に面談を設けており、職員が相談しやすい環境作りに努めている。	管理者は、職員の意見・要望を日々の業務中のほか、毎月開催するフロア会議や年1回の個人面談で把握に努めている。職員からは、利用者個々のケア方法や、勤務シフトなどの相談や要望があるが職員間で話し合っ て対応している。職員は、各居室を担当するほか、行事・レク、感染予防対策委員などの役割を担い事業所運営に参加している。	コロナ感染症の分類の変更以降、各種行事が徐々に再開しているが、職員のオーバーワークが懸念される。継続して利用者・家族へのケアやサービス向上を図る為にも、法人傘下の施設間サポート体制や各種ボランティアの受け入れ、切れ目の無い退職者補充などの検討を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するように努めており、給与水準や労働時間を含めた処遇改善に努めている。職員の能力、負担について考慮するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の力量に応じて内外の研修や法人研修の機会を確保するよう努めている。職員の力量に応じて役割を与え、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会やその他の会議・研修に参加しており、交流の場となっている。コロナ禍が明け、対面での会議も始まり情報交換や事業所間の連携を深めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に現場職員も同行して信頼関係を築き、安心して話せる関係作りに努めている。家族や関係機関から情報収集し、要望等についても情報シートを活用して職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談から丁寧に説明や報告を行い、入居後もしっかりと報告や説明を行っている。入居前から本人を取り巻く家族等も含め、不安や要望についても聴き取り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接でアセスメントを行い、関係機関からも意見や課題について聴き取り、本人や家族が必要とするサービスや課題について管理者やケアマネ、ケアスタッフで話し合い、見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事や活かせる事を見つけて協力してもらえらる機会を作り、職員と利用者双方が協力しながら支えあえるような環境、関係作りの構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも介護についての協力をあおぎ、心理面や情緒面だけでなく必要なサポートや役割をお願したりと、ともに本人を支えていける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や電話など希望きいて支援している。馴染みの方の面会や外出は一定の感染対策を講じた上で可能な範囲で支援を行っている。家族とも常に相談しながら対応している。	馴染みの場所は、良く通っていた理美容院やお参りに行ったお墓、近隣の公園などがあるが、要望に沿って付き添い支援をしている。馴染みの人は、親戚や友人、働いていた時の会社の同僚の来訪があり、家族にも確認をして面接の支援をしている。また、電話の取次ぎや手紙、年賀状の受け渡しなど関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が上手く関わられるように職員が間に入りながら支援している。レクリエーションや生活リハを通じて利用者同士が関わり、孤立しないよう、分かり合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談を必要とされる場合や役に立てる事があれば、管理者を中心に支援しており、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じて家族のフォローを行うように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしの希望について本人や家族から聞き取り、把握に努めている。困難な場合はこれまでの暮らしや家族からの聞き取りから本人本位に検討し、思いに添えるように努めている。	入居時や日常のかかわりの中から思いや意向を把握している。把握が困難な利用者には、顔の表情や動作を観るほか、利用者毎に作成している「日課計画表」を参考にしてケアに繋げている。把握した内容は、日々の連絡帳に詳細に記載し職員間で共有すると共に、「日課計画表」への反映と介護計画更新の際に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの情報収集や入居後も本人を中心に、家族や友人や関係者から情報収集している。新たに知った情報は、職員間で共有して毎日の支援に生かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、異なる様子があれば申し送り、情報共有に努めている。精神面や体調面、身体状態の変化についても様々な視点から捉え、フロア会議を通じて現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に必ず現在の様子を伝えたと上で本人や家族の意向を確認している。計画作成者は現場職員より現状把握を行った上で、それぞれの意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居時に利用者・家族から生活歴や意向を把握し、医師や看護師の助言を得て、長期1年、短期半年の介護計画を作成し、家族の同意を得ている。モニタリングは毎月のフロア会議で行っているが、利用者の状態変化や家族からの要望があれば、都度日課計画書と介護計画に反映し日々のケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録に残して申し送る事で情報を共有している。ケアの実践や必要に応じてカンファレンスを行い、計画計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズや必要に応じて人員配置など、柔軟に対応するように努めている。投票への支援や訪問理美容への支援や身寄りのない方への支援など、柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類になってからは地域の行事などに少しずつ参加しており、利用者の楽しみになっている。地域の理美容を利用したり、選挙への投票への支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人や家族の希望があれば、希望のかかりつけ医や希望の医療を受けられるように支援している。希望されるかかりつけ医と関係を築きながら、情報提供を行い、適切な医療を受けられるようしている。	利用者は事業所の協力医あるいは本人や家族の希望するかかりつけ医による受診を選択している。内科は月2回、歯科は月1回、歯科衛生士は月2回の訪問診療を受けている。心療内科受診者も多く、月1回訪問診療を受けている。リュウマチなどの専門医へは職員が同行している。週4回の訪問看護と看護師が在籍しているので利用者・家族が共に安心感があり常に適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の変化など事業所内の看護師につなぎ、相談している。また医療機関の看護師とも連携を密に図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院までの経緯や体調を含めた情報を伝えるようにしている。情報提供書を作成し、情報交換がスムーズに行えるように努めている。入院中も様子を伺い、退院にむけての相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から本人や家族の意向を確認しながら、安心して終末期に向けたケアができるように努めている。医師や家族と常に話し合いながらすすめている。地域の方にも理美容など協力頂いている。	入居時に重度化や終末期に関する事業所の取り組み体制を話し合い、説明して同意を得ている。重度化した場合は、具体的に家族の希望や医師・職員スタッフと話し合い看取りケアに努めている。職員は年1回看取り研修を行い、個々の変化状態に合わせその人に相応しく寄り添える看取りが出来るよう取り組んでいる。直近で1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を中心に応急処置や急変・事故発生時の対応について学び合い、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間帯を含め避難訓練を年2回行っている。災害訓練も年1回行っており、訓練の実施内容や報告も全職員に対して行っている。運営推進会議で避難訓練の状況等も報告している。	避難訓練(夜間想定を含む)年2回実施している。訓練時は、地域包括支援センターや民生委員の方々にも声掛けをし、年1回行われる校区防災訓練にも参加し協力体制を築いている。車椅子の利用者が多いので非常時の階段を降りる時の救助担架を用意している。備蓄は、3日分(水・お粥・ビスケットなど)を整備している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を通じて相手の立場に立って尊厳やプライバシーの尊重を大切にしよう努めているが、言葉の乱れについて職員同士で声かけあう難しさが、研修を通じて資質の向上に務めている。	プライバシー確保・接遇の研修を実施している。一人ひとりの人格を尊重して排泄時は小さな声掛け、入浴時は羞恥心への配慮、入室時は声掛けとノックで、言葉遣いに注意を払い対応している。不適切な発言があった場合は、職員間で注意しあっている。重要書類は鍵付きのロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り飲み物やテレビ番組など、日常生活の中で普段から利用者に希望を伺いながら、自己決定できるように働きかけている。意思表示ができない方は好みなどをくみ取りながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いやペースを大切に、寄り添う支援を大切にしている。できるだけその人の希望にあった過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやこだわり・希望を伺いながら、本人らしく過ごせるように支援している。家族の協力を得ながら支援している。理美容への希望が多く、すぐに対応できないこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じるメニューを取り入れたり、食事の準備を職員と利用者が一緒に行っている。クッキングや行事食では盛り付けや飾りつけ、食器なども工夫し、それぞれできる事を一緒に行っている。	食事は業者から献立と食材を調達し、職員が交代で調理をしている。利用者は、テーブル拭きや野菜の皮むきなど個々の能力に応じて職員と一緒に準備している。食事レクリエーションとして焼きそばや寿司を注文したり好きなメニューを取り入れている。外食は難しいが車で15分位の公園へおやつとジュースを持って外食の気分を味わう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量を個々に記録している。必要な方には水分摂取量を把握し、一人ひとりの好みに合わせて家族の協力を得ながら嗜好品やお好きな物の提供を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔内の状態に応じて見守りや介助を行っている。月1回の歯科往診と月2回の歯科衛生士による口腔ケアにて口腔内の状態を把握し、アドバイスも受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄間隔や介助方法で排泄の支援をしている。トイレでの排泄について、個別に体調や状況に応じて排泄形態を常に検討しており、本人や家族の意向も取り入れている。	排泄は、排泄チェック表を参考に声掛けや誘導でトイレでの排泄支援をしている。職員の声かけと居室とトイレまでの移動距離が近いとすることで布パンツに改善した利用者がある。夜間は2～3時間おきに見回り声掛けとオムツ・パッド交換をして、個々の排泄に配慮して睡眠を妨げないよう支援している。ポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや飲み物に牛乳を使用したり、しっかりと水分摂取できるように支援している。腹部マッサージやラジオ体操など、体を動かす体操と取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本に、体調や本人の意向や希望に合わせてながら入浴の支援をしている。ゆず風呂や菖蒲湯を取り入れながら、個々に応じた支援を心がけている。	入浴は、週2回午前中に支援している。入浴拒否の人が出ないように声掛けや誘導に心掛けている。重度の利用者へは二人介助でシャワー浴で対応している。歌をうたったり利用者とのコミュニケーションを取ったりゆず湯やしょうぶ湯などで楽しむ工夫をしている。ボディクリームを使用する利用者への支援など個々の要望に添って支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状態や精神状態や希望に合わせてながら必要な休息を支援している。就寝前の過ごし方なども一人ひとりに合わせて支援し、寝具等も家族の協力を得ながら眠りやすい環境を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時には連絡帳や日誌を活用しながら申し送り、周知している。薬剤師による薬剤指導管理で薬の目的や副作用、用量についての説明を受け、安全に服薬できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの楽しみやお好きなことを取り入れながら、楽しい時間が過ごせるように支援している。できることを活かした役割づくりや「いるがい作り」を大切に毎日の生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園まで散歩にでかけたり地域の行事に少しずつ参加している。地域の馴染みの美容院と協力しながらカットへ出かけたりと、地域の方や家族と協力しながら支援している。	今の季節は、気温が高く外出は難しく、夕方に玄関先に出て日光浴や外気浴を兼ねて気分転換を図り、プランターの野菜栽培の水やりなどで外に出る機会を増やしている。6月にはコスモスの花見に出かける支援を行っている。家族と一緒に美容院に出掛けた利用者もいる。今後は、家族と一緒に花見に出かけられるよう支援していきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人の希望に応じながら、少額ではあるが自己管理できる方は金銭を所有して頂いている。本人の依頼に応じて職員が買い物代行を行うなどの支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と本人の希望に応じ、可能な範囲での面会や電話の取次ぎなど、交流を持てるように支援している。代筆を含めた年賀状などで支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、四季折々の飾りを利用者と一緒に制作し、居心地のよい環境作りに努めている。明るさや室温・湿度の調整に気をつけ、衛生面にも気を配り、消毒や換気も実施している。	広々とした空間に空気清浄機が置かれ、テレビの前にはゆっくりとくつろげるソファがあり居心地の良い空間をつくっている。壁面は折り紙で造ったかき氷の作品が飾られ、職員手作りのフェルトのカレンダーがあり毎月利用者が数字を変えて1か月分のカレンダーを作成している。清掃は職員がして清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席を考慮したり、ソファや長椅子などを利用しながら、気の合った利用者同士でテレビを楽しめたり、居室で新聞や本を読んだりと思い思いに過ごせるような居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具などを家族の協力を得ながら持参して頂き、馴染みの物や写真を取り入れ、本人が過ごしやすく、居心地のよい空間づくりに努めている。	居室の入り口に名前が書かれたプレートが掛かっている。ベッドはレンタルで洗面台があり、ハンガーラックと押入れが備え付けられている。利用者の馴染みの椅子・テレビ・縫いぐるみ・家族の写真・仏壇など持ち込み、その人らしい過ごしやすい居室となっている。清掃は職員がして清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ネームプレートなどでわかりやすく表示し、居室内の配置は安全に過ごしやすいように工夫している。足元や手すりに危険がないかなど気をつけながら、残存機能の維持に努めている。		